

ストリートアートプレックスにおける都市空間利用に関する研究

熊本大学工学部 学生会員 ○田島 春香
熊本大学大学院 学生会員 増山 晃太

熊本大学大学院 正会員 星野 裕司
熊本大学大学院 学生会員 尾野 薫

1.はじめに

1.1 背景

都市空間は人々に多種多様な使われ方をされる。日常とは異なる、ある特別な使われ方には、それを観察する人々に、その場所に対する意識や関心を持たせる場合がある。都市空間で行われるパフォーマンスアートもそのひとつである。パフォーマンスという使われ方はその場所が潜在的に持つ魅力を引き出す。観客はその場所を記憶し、意識や行動の変化を起こす可能性がある。

そのような「場所の使い方」に対し、既往研究をみると、イベント時の場所の使い方と空間との関係に関して考察を行っているものや¹⁾、観察者の場所に対する意識の変化を分析したもの²⁾が見られるが、場所の潜在的な魅力について述べたものはない。

本研究では場所の持つ魅力の潜在性と、パフォーマンスによってその顕在化に努める主催者に着目する。主催者が場所の潜在的な魅力をどのように捉え、それらをどう活かそうとしたのかを明らかにすることは、利用者の意識や行動の変化を促すような都市空間の使い方を考える上で有意義である。また、今後の都市デザインに貢献すると考えられる。

1.2 目的

本研究では日常的な都市空間でパフォーマンスアートを行っている Street Art-plex KUMAMOTO (以下 SAP) を対象とする。パフォーマンスが行われる会場の、元の日常空間とパフォーマンスの関係からその場所の特徴を明らかにし、それらを主催者がどのように捉えたのかを考察する。さらに、事後レポートから、会場とパフォーマンスの観客に対する効果を考察する。以上より場所が潜在的に持つ魅力とその顕在化のされ方を明らかにすることを目的とする。

2.研究の対象と論文構成

2.1 Street Art-plex KUMAMOTO の概要

SAP は熊本市の中心市街地に位置する上通・下通・新市街アーケードとその周辺街路や広場で、音楽や舞踏、大道芸などのパフォーマンスアートを展開す

るプロジェクトである。主催者である SAP 実行委員会は各商店街組織（下通繁栄会、上通商栄会、新市街商店街振興組合、シャワー通り商店会、城見町全栄会、安政町商興会、センタープラザ運営委員会）と熊本市商工業労政課、熊本商工会議所、その他有志からなる。

“パフォーマンスアートを都市空間で多角的に展開することで表現の世界をより身近なものとし、芸術文化の創出と潤いあるまちづくりを目指し、一過性のイベントではなく日常の中に質の高いパフォーマンスを提供すること”をコンセプトに 2002 年から現在までに 141 回のプロジェクトを行っている。

2.2 分析対象

本研究では 2007,2008 年度（2007.5.11～2009.3.25）に行われた 38 回の事業から、屋内で行われたものや、場所が不明確なものを除外した 29 事業、17 会場（図-1）を分析の対象とする。

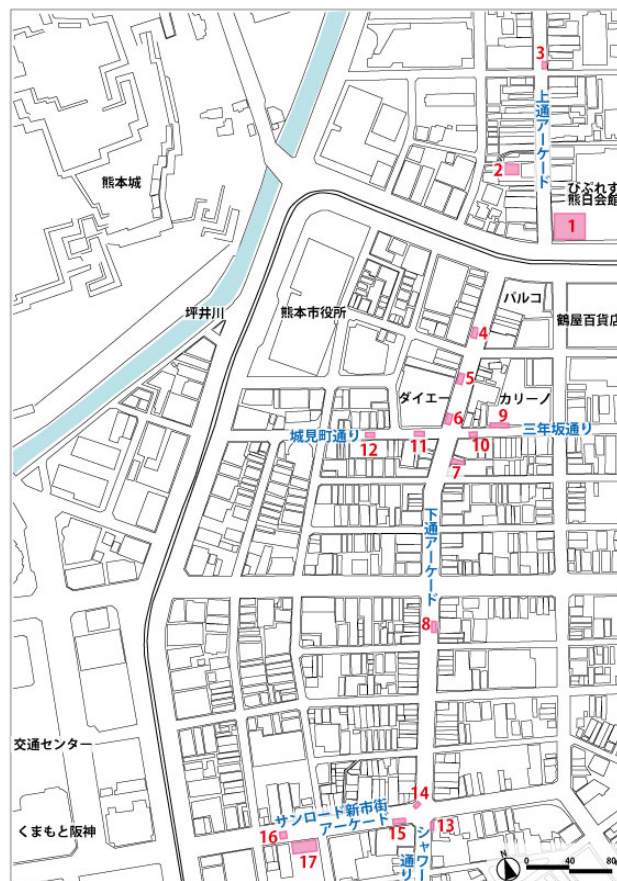


図-1 分析対象の 17 会場

2.3 論文構成

まず、会場について法規や周辺環境による条件を整理する (3.1)。また、各会場の空間的特徴や日常の利用法などを整理し、各会場の特徴を明らかにする (3.2)。次に会場ごとのパフォーマンスを種類や規模といった視点から分析し、会場の使い分けを示すが、本稿では紙面の都合上割愛する。さらに、イベント終了後に SAP 実行委員会の各会場の担当者が記した『事後レポート』より、ある会場でのパフォーマンスの、観客に対する効果を考察する (4 章)。

3.会場の特徴

3.1 条件

3.1.1 法規制

一般的に、道路を使用する際には道路交通法第 76、77、78 条に基づき、所轄警察署長による道路使用許可を得なくてはならない。SAP の場合、アーケードを会場とするものや、会場が私有地であってもアーケード上に椅子等を展開するものは熊本北警察署長の許可を得ている。

3.1.2 周辺店舗

会場周辺店舗の迷惑にならないよう、空き店舗の前、営業時間外の店舗前、営業中でも許可が取れる店舗前を会場としている。また、周辺店舗に対し各商店街組織を通し開催について事前に話を通していき、理解を得ている。

3.2 特徴

各会場を通りや空間的特徴、利用などの視点から整理すると表-1 のようになる。

表-1 各会場の特徴

ID	会場名	通	管理	空間的特徴		利用	
				幅(m)	屋根	日常利用	店舗の業種
1	びぶれす広場	上通	民間(熊日)	11	有	広場	書店、文具店、楽器店、ホール、画廊など
2	バビリオン		民間(紅蘭亭)		無	オープンカフェ	
3	大谷楽器前		熊本市		アーケード	街路	
4	ファインビル前	下通	熊本市	15	アーケード	街路	大型店を始め、雑貨屋、ファッション専門店、飲食店など
5	櫻井総本店前		熊本市		アーケード	街路	
6	ダイエー前		熊本市		アーケード	街路	
7	スペースS		商店街(下通繁栄会)		有	広場	
8	近畿日本ツーリスト前	三年坂	熊本市	11	アーケード	街路	
9	モリコーネ前		民間(カリノ)		庇有	オープンカフェ	書店、ファッション専門店
10	紅蘭亭横		熊本市		無	街路	
11	ダイエー横	通町	熊本市	9.6	無	街路	飲食店、スナック
12	南酒店前		熊本市		無	街路	
13	スターバックス前	シャワ	民間(スターバックス)	18	庇有	オープンカフェ	ブティック、ブランド店
14	マクドナルド前		熊本市		アーケード	街路	
15	ベスト電器前		熊本市		アーケード	街路	映画館やパチンコ、ゲームセンター等の娯楽施設
16	DENKIKAN前		熊本市		アーケード	街路	
17	公開空地(サンフォード)	新市ロ	商店街(新市街商店街振興協)		無	空地	

街路以外では、普段誰でも利用可能な広場や、街路に向けたオープンカフェなど、身近な場所が会場となっている。

4. パフォーマンスの評価

4.1 事後レポートについて

実行委員は SAP 当日、全体の管理者や各会場の担当者となり配置される。事後レポートは、開催後それぞれの担当者が、総合インプレッション、パフォーマンスの質、音響、現場ディレクション、オーディエンス、警備・ナビゲーション、セッティング、タイムスケジューリング、アンケート、次回への反省を自由に記したものである。

4.2 評価手法

事後レポートにおいて、会場とパフォーマンスの種類が明らかであり、観客の意識や行動の変化を記したものを抜き出す。それらの記述から、どのようなパフォーマンスが場所の魅力を引き出したのかを考察する。

4.3 評価と考察

ここでは、2008 年 4 月 7 日の「on the corner vol.38 Spring In New York」を例とする。ジャズバンドの演奏がモリコーネ前で行われた。

“小編成ジャズバンドのストリートパフォーマンス場所として、モリコーネ前というロケーションの持つパワーがいかに発揮された”“ニューヨークの第一線のジャズギタリストが、熊本のストリートで演奏していて、それを普通のおじさんサラリーマンがいぶかしげに眺めながらも素通りしている様子”などの記述から、パフォーマンスがうまく会場の持つ魅力を顕在化させたと評価できる。他のパフォーマンスや各会場との比較など、詳細な考察は発表時に提示する。

5.おわりに

本稿では、SAP でのパフォーマンスが行われる会場の特徴と、主催者がそれらをどのように捉えたかを示した。また、パフォーマンスの観客への効果を考察した。以上より、場所の持つ特徴や魅力を明らかにした。

今後は、観客やパフォーマー、会場の管理者からの評価という視点から、場所の魅力について考察を進めたい。

【参考文献】

- 1) 渡辺直、加藤浩司、宮脇勝、北原杜理雄：中心市街地の賑わい創出を目的とした公共空間利用実験—千葉市「都市景観市民フォーラム」を事例に—、第 36 回日本都市計画学会学術研究論文、p.p.793-798, 20012,
- 2) 高岡耕子、阪田和哉、永井護：イベントのインパクト分析～「とちぎファームフェスタ 2005」をケーススタディとして～、土木計画学研究・論文集 Vol.24 no.2, p.p.371-379, 2007,
- 3) Street Art-plex KUMAMOTO ホームページ、<http://www.artplex.jp/index.html>